

集へ寮友よ、我らが魂の 故郷のふるさとへ

明治2年（1869）に設置された開拓使は、開拓次官黒田清隆（1840～1900）を中心に北海道開拓の専門技術者養成を目的とする学校の設置を計画したが、建設間もない札幌は十分に基盤が整っていなかったため、明治5年（1872）4月15日（陰暦）、東京芝の増上寺本坊に開拓使仮学校を開校した。



120年後の平成4年（1992）、北海道大学東京同窓会は創立50周年を記念して、帝都東京芝公園内の北東の一角（港区芝公園3-2）に「開拓使仮学校跡」石碑を建立し、11月15日に除幕式をおこなった。

それから二十幾星霜、今年もやろう、「草刈り寮歌祭」！

恵迪寮同窓会東日本支部長 坂倉 雅夫（昭和44年入寮）

一、日時 : 平成26年8月17日(日) 10:00から

一、場所 : 芝公園「開拓使仮学校跡地」石碑前に集合

一、その他 : 草刈り鎌、軍手、可燃ごみ袋、タオル、帽子等の

準備をして来て下さい。

■ 問合先 : 〒176-0021 東京都練馬区貫井 4-47-42
幹事長 関口 光雄（昭和39年入寮）

E-mail: jubesannchinoko@ybb.ne.jp Fax 03-3926-0080

2014. 06. 25

「にほんのうたと鉄道展」

会期：8/5日(火)～11/24(月・祝) 於：旧新橋停車場 鉄道歴史展示室

【主旨】

『鉄道唱歌』は、「汽笛一声新橋を…」とはじまり、地理教育のために1900(明治33)年につくられた。

鉄道省の時代には旅客誘致、積極的なPR手段としてポスターなどとともに鉄道の歌がつけられていき、昭和に入ると特急列車が登場し、愛称もつけられ「富士」「桜」「燕」など旅行ブームに乗って人気を博した。

そして敗戦。戦後の昭和20年代半ばに生まれた三木鶏郎作の冗談鉄道唱歌「僕は特急の機関士で」では、ガラリと雰囲気が一変する。戦後の解放感あふれる歌で、弾けるようなリズムと歌詞で大評判を得た。

その頃から、社会は高度経済成長期へと疾走しはじめ、世界を驚かせた東海道新幹線が開業、旅にまつわる歌も多種多様になっていった。中でも本州と北海道を結ぶ“青函連絡船”、北へ向かう歌には特別な情緒が感じられると思う。

本展では“うた”と“鉄道”を通して1900年～1970年代頃の日本を眺めていただきたい。

【展示楽曲 案】

① 唱歌編

- 「鉄道唱歌」1900(明治33)年 作詞大和田建樹 作曲多梅稚^{おおのうめわか}
- 「新鉄道唱歌」1929(昭和4)年鉄道省編
- 「鉄道精神の歌 一轟け鉄輪一」作詞北原白秋 作曲山田耕作
- 「新鉄道唱歌」日本放送協会発行 1937(昭和12)年 作曲堀内敬三
- 「リンゴのひとりごと」1940(昭和15) 作詞 武内俊子 作曲 河村光陽

〈リンゴ列車〉

② 歌謡曲編

- 「旅の夜風」1938(昭和13) 映画「愛染かつら」主題歌
- ・「夜のプラットホーム」1947(昭和22)年、14年作 作詞奥野椰子夫 作曲服部良一
〈戦前の新橋駅〉
- 「僕は特急の機関士で」1951(昭和26)年 作詞作曲 三木鶏郎
- 「高原列車は行く」1954(昭和29) 作詞丘灯至夫 作曲古関裕而 〈沼尻鉱山・軽便鉄道〉
- 「修学旅行」1963(昭和38) 丘灯至夫 遠藤実
- 「あゝ上野駅」1964(昭和39) 作詞関口義明 作曲荒井英一 〈集団就職列車〉
- 「はしれ超特急」1967(昭和42)年 作詞山中恒 作曲湯浅譲二 〈新幹線〉
- 『にほんのうたシリーズ』1966-69(昭和41-44) 作詞永六輔 作曲いずみたく
「終電車のブルース」(埼玉)、「いい湯だな」(群馬)、「女ひとり」(京都)、
「フェニックス・ハネムーン」(宮崎)、「東京のせがれ」(新潟)
- ◎「津軽海峡冬景色」1977(昭和52) 作詞阿久悠 作曲三木たかし 〈青函連絡船〉

【旧新橋停車場】

この建物は、1872(明治5)年10月14日(太陽暦)に開業した日本最初の鉄道ターミナル新橋停車場の駅舎の外観を、当時と同じ位置に、できるだけ忠実に再現したものです。

新橋停車場駅舎は、アメリカ人R・P・ブリジェンスの設計による木骨石張りの構造で、1871(明治4)年5月に着工、同年12月に完成し、西洋建築がまだ珍しかった時代の東京で、鉄道開業直後に西洋風に整備された銀座通りに向かって、偉容を誇っていました。

1914(大正3)年、新設の東京駅に旅客ターミナルの機能が移り、それまでの烏森^{からすもり}駅が新橋の名を引き継いで現在の新橋駅となり、貨物専用駅となった旧駅は汐留駅と改称、物流の大拠点として戦前戦後を通じて東京の経済活動を支えました。

文明開化の象徴として親しまれた旧駅舎は、1923(大正12)年9月1日の関東大震災に際して火災のため焼失し、1934(昭和9)年から始まった汐留駅改良工事のため、残存していたプラットホームや構内の諸施設も解体されました。

1986(昭和61)年、汐留駅はその使命を終えて廃止され、跡地の再開発工事に先立つ埋蔵文化財の発掘調査が1991(平成3)年から行われた結果、旧新橋停車場駅舎とプラットホームなど構内の諸施設の礎石が発掘されました。1996(平成8)年12月10日、駅舎とプラットホームの一部の遺構が史跡『旧新橋停車場跡』として国の指定を受け、この史跡を保護しつつわが国鉄道発祥の往時を偲ぶために、駅舎を再建することになったものです。



JR新橋駅「銀座口」より徒歩5分

建物概要

延床面積	1,351 m ²
建築面積	969 m ²
規模	地上2階(高さ15m)
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
竣工	2003年4月

鉄道歴史展示室

開館時間	10:00 - 17:00(入館は閉館の15分前まで)
入場料	無料
休館日	月曜日(但し、祝祭日の場合は開館、翌日休館)・年末年始・展示替え期間中

表紙写真 横浜開港資料館所蔵

旧新橋停車場 鉄道歴史展示室

〒105-0021 東京都港区東新橋1丁目5番3号

電話 03-3572-1872 <http://www.ejrcc.or.jp>

公益財団法人 東日本鉄道文化財団



旧新橋停車場 Old Shimbashi Station

